

2013年6月、イオン(株)グループ環境・社会貢献部の鈴木裕章さん、(株)マルエツ顧客サービス環境推進部の岩佐朱美さんをお招きし、店頭回収とレジ袋削減への取組みについてお話を伺いました。

■テーマ『店頭回収とレジ袋削減への取組み—現状と課題—』

【日時】2013年6月28日(金)14:00~16:30

【場所】飯田橋セントラルプラザ 16F(A)

●イオン(株)グループ環境・社会貢献部の鈴木裕章さんからは、毎日の来店者が400万人を超えるイオングループとしての取組みをお話しいただきました。ポイントは以下のとおりです。

- ・はじめは岡崎オカダヤだが、1989年のジャスコ誕生20周年が今日への分岐点である。
- ・東西問題から南北問題へと世界の課題に対する認識が変わった。
- ・2011年にイオンサステナビリティ基本方針を制定。重要課題は、1.低炭素社会の実現、2.生物多様性の保全、3.資源の有効活用、4.社会的課題への対応、である。
- ・レジ袋の辞退率は63.4%にまで至った。

●(株)マルエツ顧客サービス環境推進部の岩佐朱美さんからは、食品スーパーとしての立場からお話しいただきました。ポイントは以下のとおりです。

- ・回収ボックスからは、日に10回も移動しなければならないため、現場の負担になっている。
- ・が、東京ルール廃止もあるので、事業者として考えなければならない。
- ・店頭で回収したものはできるだけ国内でリサイクルしたい。
- ・レジ袋の辞退率は25%程度である。

■主な質疑、意見交換の概要は以下のとおりです。(イ)はイオンの鈴木さん、(マ)はマルエツの岩佐さん。

Q. 「社会的課題への対応」について、喫緊の課題は何か？

A. (イ)女性の活用である。

Q. 店頭回収後はどこに行くのか？

A. (マ)東京は自治体に、他は民間業者に。(イ)自主回収なので独自に処理している。

Q. リターナブルびんの回収は？

A. (イ)回収ルートがある場合は店頭で回収している。拡大の傾向にはない。

(マ)イオンと同じ。回収BOXがあるわけではなく、サービスカウンターで返却する。

Q. パックの持参についてどう思うか？

A. (マ)スーパーはセルフサービスが基本なので、衛生管理・温度管理上、容器包装は必要である。ごみを減らすために「店頭回収」をはじめた。

(イ)安全・安心をどう担保するかという観点でやっている。そうざいの小分けなどは必要。ノントレイ包装の実験段階では、スーパーのバックヤードでトレイを外して売っていたという事例を知っている。時間帯によってトレイの色が変わるスーパーもあるが、是非は考える必要がある。

Q. I社は自動回収機を導入したが？

A. (イ)食品スーパーの要望はあるが、まだ割高。4店に導入して、検証中。環境教育上は重要。

(マ)5店で導入。食品スーパーなので、リサイクルBOXに限界がある。環境教育の視点は大切。

(文責/3R全国ネット事務局)